

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — )

事業所番号	0670801109		
法人名	株式会社 ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	山形県酒田市麓字横道 10-8		
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 5 日	開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、入居されている皆さんと職員が生活を共にしながら家族の一員として、皆で協力し合い暮らしを支え命を守ることを念頭に入れ周知し、明るく楽しく狭いながらも心地良い空間に「笑みと安心を」掲げ一丸となって取り組んでいる日々です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3—31		
訪問調査日	平成 23年 8月 8日	評価結果決定日	平成 23年 8月 26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が積極的で、民生委員や地区の方が毎月2回ボランティア活動に訪れています。その来訪を心待ちにし、日々の暮らしに笑顔と楽しみが溢れています。昨年度は職員の支え合う協力体制が資格取得と更なるレベルアップに繋がり日々のサービスに取り組み、利用者一人ひとりが体を動かし、現状維持に努めたいと願っている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目 No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心地良い空間に 笑みと安心を！」を基本理念として掲げ、職員一丸となり取り組んでいる。	理念を基にケア目標5項目を掲げて、日々のケアサービスに活かしている。利用者が一日一瞬、一緒に声を出して笑い合える安心した暮らしが出来るように努めている。職員全員が一人ひとりの個性を高め合い取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月2回、地区の方が4~5人訪問してくれて、キーボードに合わせ童謡や懐メロを一緒に口ずさんでいる。又、近くのスーパーに買い物に行った際も「今日は何のご馳走だー」と店員さんや顔なじみのお客さんより毎回声掛けしていただき、本当にありがたいと感じています。	地区の方が定期訪問計画表を提出し、ホームの行事も決めやすくなっている。来訪時は表情も明るく音程を外しても歌(童謡・懐メロ)を口ずさみ、夏祭りは屋内で開催し、神輿・子供神輿・奴振り・獅子舞と地域の祭りが利用者の思いを掘り起こしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎朝小学校の登校隊が施設脇の歩道を通学しており、その子供たちに対して「行ってらっしゃい」、「気をつけて」等の声掛け行なっている程度に留まっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に参加されている民生委員の方より地域情報を頂き、施設利用者様と一緒に「童謡コンサート」に参加し他の施設の方とふれあいながら童謡を口ずさむ等活用したり、助言や対応等参考できることは取り入れるよう心掛けている。	運営推進会議は定期的に、利用者、家族会代表、各メンバーとテーマを決めて開催している。現状・行事・会計報告、情報交換と内容に応じた話し合いが行われ、地域密着型サービスとして日々の関わりを報告し質向上に繋いでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所されている生活保護の方の状況を、酒田市が把握するため定期的に訪問し面談している。又、状態に応じ帰宅願望強く対応困難時は相談行ない、即座に面談に来て頂き、訴えを聞きながら穏やかに対応していただく等の協力が得られている。	地域包括センター主催の調整ネットワーク会議が年2回八幡地区の医療、福祉施設関係者と市福祉課の参加もあり情報交換と交流を図っている。毎月介護相談員が訪問して連携を深め合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関よりの風通しが良い為、玄関はなるべく開放し、施設内の温度調整を兼ねながら玄関先に洗濯物を干したり、外を眺める椅子を置いたり工夫を行ない、閉め切ったりしないよう努めている。	玄関は開放し、安全な暮らしを守るための取り組みを勉強し実施している。帰宅願望や転倒等、予測されるリスクを家族等と話し合い同意を貰う等、やむを得ない場面以外は、自由な暮らしの理解を得られるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で対応や言動が不適切な場合は、その場で直ぐに皆で話し合い、どう対応や助言していくか随時検討し、穏やかな生活が得られる様心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け多少の知識を持ち合わせているが、他の職員への周知徹底は十分とはいえない面がある。活用状況も多くはなく、自己管理が困難な利用者の方の金銭管理を、酒田市社会福祉協議会の権利擁護事業を利用して行っている程度である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまで同様、理解と同意が得られるよう説明には十分努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にはご意見箱を設置しているが、これまでの投函は一件もない状態である。家族とは面会時など随時コミュニケーション図り、要望や意見など伺いながら情報交換行ない、個人の健康面や処遇に対する問題等相談に載ってもらうよう努めている。	大切なコミュニケーションの場である家族等の面会時には、担当者に何でも話して貰えるよう雰囲気作りを図っている。毎月家族等へ「生活の様子・健康状況等」を送付して、意見・要望等を職員全員で共有し日々のサービスに反映している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者と職員との意見交換の場がほとんど無い状況にあり、今後は職員の意見や提案など聞く機会を設けて頂くよう働きかけて行く必要があると考えます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善を目指すために、社会保険労務士に委託して就業規則等の見直しを図ったり、資格取得に対する手当の増額及び介護職員処遇改善交付金における要件の整備をしながら、できることから実施に努めているが、職員にとっては十分とは言えない点も多くあるものと思われる。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県GH協会の研修やスクラムチャレンジ研修を通し、職員のレベル向上を図るべく対応に当たっている。又、積極的に資格習得にも応援し、それなりの結果が得られている。	庄内地区4グループで開催されるスクラムチャレンジ研修や、法人内で職員の移動や情報交換により、利用者のケアサービスに繋がる取り組みをしている。職員数人が資格取得し、日常的に学ぶ事を推進し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	スクラムチャレンジ研修を通し、新人職員の研修や中堅職員の研修など毎回研修内容を替え、他施設の状況や職員同士の交流を図り、職員の気分転換や情報交換の場となっており、利用者への質の向上へと繋がっていると感じている。	調整ネットワークやスクラムチャレンジ研修に参加して情報収集している。法人内の質向上に繋がる研修は、サービス環境の違いを乗り越えて、勉強会を開催している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活暦や入所に至るまでの状況を把握した上で、信頼関係が早期に構築出来るよう、意思疎通とコミュニケーションに心掛け対応に当たっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケア目標に沿って生活を支え、家族の皆さんの協力を頂きながら早期に不安を解消し、安心して生活出来るよう援助に当たっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設生活を共にする上で、事前情報を元に暫定プランを家族に提示し、了解を得ながら対応に当たっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活を共にしながら様々な人生経験をヒントに頂きながら、職員も支えられているという意識を持って接するよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人のケアプランにもあるように、家族との絆を維持し、自宅の事を忘れないためにも、家族と施設が情報を共有しあい、外出の機会が得られるよう援助している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より「自宅が心配で行ってみたい」などの希望があった場合、日程調整を行ないドライブを兼ね自宅に行ってみたり、他のグループホームに入居している夫の好物を手土産に持ち面会に行く等の援助行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度や性格的なことを考慮し、また、テーブルの配置を工夫することで会話がスムーズに行えるよう配慮したり、できるだけトラブルを回避し利用者同士の関係が良好にいくように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院期間が1ヶ月を越えやむなく退所となった場合でも、利用者の受診時に病室を見舞うなど行ない、家族より状況を聞くなど継続的に見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望の強い方には拒否をせず、直ぐに帰宅できるように荷物をまとめておくことで気分が和らげられるよう配慮したり、買物や外に行く機会があるたびに同行してもらい気分転換に努めている。時には自宅につれて行き自分の思い出の物品を持ち帰ったり周囲の景色を把握する等援助行っている。	思いや意向を旨く伝えられない方は、好きな物に手を伸ばし口に運ぶ仕草が見られたり、体調が良いときは表情や動作にも表れ、状態変化を把握し日々の暮らしを見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者よりアセスメントを作成してもらい、職員もそれを共有し生活歴把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々にその人らしさを把握しており、いつもと違う状態や行動等の情報を共有しあい、何かシグナルを発信していないか常に見守りながら対応に当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題について3ヵ月ごとモニタリングを行ないながら、新たな課題は無いのか、状況は変化していないのか、記録をもって情報交換している。新たな気づきがあった場合はその日のチームで対応策を出し合い、即実行できるように心掛けている。	カンファレンス記録は職員一人ひとりの意見や利用者、家族等の希望を情報収集し、目標の支援継続か見直しか意見を出し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護経過と生活記録に分けており、介護計画や日常生活の状況又は特記事項など、ひと目で把握できるよう記録しており、問題が発生した場合は個人記録に対応策を記入し、更に実践状況を記録し理解得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買出しと一緒に出かけ、多い時は三軒のスーパーを回ることもあるが、自ら後部座席より買い物カゴをもちカートの下に置き、スーパーのカゴを自分で乗せ「今日は何買うのだやー」とお店の定員さんからも毎回声掛けてもらったり、買物に行くのは楽しいと本人も気分転換となっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診及び緊急時受診は、基本的に施設職員付き添いの元行ない、医療機関への経過報告を含め情報提供行なっている。家族には状況に応じ随時報告行なっている。	協力医療機関でかかりつけ医でもある市立八幡病院は、通院や定期的な往診も含め何でも相談できる良好な関係で、利用者全員の健康管理に関わっている。受診結果や身体状態を家族等に報告し、職員共に情報共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不安な場合は、職員一人で判断せず複数の職員で検討し、看護師に報告し確認してもらいながら助言をもらう等の対応に当たっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居期間が長くなっていることもあり、重度化に伴い介護量拡大傾向にあり入院治療の必要な状況が多くなっている。昨年度はほぼ毎月のように誰かが入院している状態で、医療機関に対しても、毎回状況提供書を作成し退院時には看護サマリーを頂くなど、状況に応じ連絡を行ない施設として大変助けられている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族も状況を良く把握しており、「施設生活が困難に陥った場合は病院のほうに入院させていただけるようお願いしている」との事（癌転移発覚）で、今後可能な限り援助継続見守っていく予定です。	利用者の重度化や状況変化に伴い家族等と話し合いを重ね、事業所として出来る範囲を説明し、医療関係者との連携と対応方針の統一を図りながら、希望に沿えるように支援したいと考え取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し周知徹底を図っている。対応困難時は電話連絡にて指示を仰いだり、応援要請にて対応に当たっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度より毎月避難訓練行ない、全職員が机上訓練と夜間を想定した避難訓練を実施し、地域消防団にも協力を要請行ない地区公民館も災害時避難場所として確保している。	併設の事業所と合同で年2回の総合訓練と、毎月全職員が交替で夜間想定での避難訓練を実施している。災害時の地域への協力依頼もしており、3月の大震災経験を活かし災害対策の重要性を更に感じて取り組んでいる。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴後にボディクリームやヘアークリームを付けて欲しいと入所時から娘さんより依頼あり、5年半経過した現在も継続しているが、自立歩行から車椅子使用となりオムツに対する拒否も強く、プライドを傷つけないようにと意思尊重しているものの、重度化傾向で職員の疲労感が増してきている状況でもある。	人格や身体状況に合わせて対応を考慮し、職員が笑顔で接すると素敵な笑顔が返ってくるような工夫を心がけている。童謡や懐メロを歌ったり、得意なことをしてもらったり毎日活き活きと暮らせるような支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定が出来るように心掛けてはいますが、認知面でも進行あり、自己決定できないことが多くなっている。オヤツでも最近は個別包装されているためどんなお菓子なのか判断できず、けっきょく職員が勝手に配ってしまう状態である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくメリハリのある生活をと、毎日午前中には身体を動かすことを中心としたレクリエーションを心掛けているが、「馬鹿くせー！してらんね」と捨て台詞に居室にこもり、カーテンを閉めクローゼットのドアをバタバタさせている。こんな状況も多々見受けられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎週のように娘さんが面会に来て、このポロシャツにはこのベスト重ねて欲しいと色々アドバイスをしてくれる。本人の選択肢は今では望めない状態でもあるが、オシャレだった利用者の事を思い、なるべく意向に沿えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	付き添いながら野菜の下準備を共に行なうが、目を放した際にもやしやシメジを食べていることがあった。一緒に食事しながらさっきのもやしにシメジだよーと同意を求めても、「知らねーおら、わがらねおの、何にもわがらねぐでもっけたの」等の返答が聞かれ、それもまた皆で笑える。	昼食は、買い物から献立作り、調理、後片づけまで出来る事は手伝ってもらい、職員と共に行なっている。一緒に食卓を囲み会話も弾みながら、楽しい食事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給は毎回チェックしており、それぞれの摂取量や嗜好に合わせ、随時コミュニケーションを図りながら提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア行っており、個人の能力に応じ出来ない部分は介助をし、舌苔が着かないようブラッシング指導しながら確認を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子使用で立位可能であれば、日中は訴え時又は定時でトイレ誘導行ない、介助にて排泄機能維持を支援している。	トイレ内に紙おむつが個別にすぐ取り出せるように配置しており、目立たずすばやく対応するための配慮がしてある。排泄チェック表を確認しながら一人ひとりの身体機能に応じて現状維持を目標にした排泄支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、定期的に排便コントロールを行ない、快適な生活となるよう援助を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は夕方に設定しており、体調不良や排便コントロール時は翌日にするなどの配慮することにより、体幹清潔保持に努めている。	同じ時間帯夕方からの入浴で1日の生活の流れにメリハリをつけ、好きな入浴剤を選んだり、工夫と安全に配慮した入浴支援となっている。重度化した利用者には職員2名での介助がしやすいように、併設のデイサービスの広い浴室使用で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの要望や状態に応じ、照明の調節や空調管理行ない、好みの環境整備に心掛けることにより、安眠休息を支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を個人ファイルに表示しており、変更あった場合は特記事項に記録し申し送ることとしており、食事前に準備した際は必ず複数の職員にて確認行なう等支援し、誤薬事故防止にも努めている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な範囲で、利用者と共に花壇の水掛けや草取り等を行ない、気分転換に努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が昼休みなど利用者の方と一緒に、散歩がてら郵便局に行ったり、天気をみながら外が気持ちよい時は近くの寺回りコースを15分ほど掛けてゆっくりと散歩し、路肩に咲いている花を摘んでは花瓶に挿して皆で眺める等楽しんでいる。	「今日どこかに行きたい」という急な要望にも天候、体調、配車、職員の勤務体制の都合がつく限り全員一緒に出かけている。近隣の散歩コースは車いすの方も含めて地域住民と関わりながら楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が個々に出納帳を用い、家族に連絡報告を行なっている。又、インコを居室で育て管理している方より、餌を買いに行きたいとの希望時は一緒に近くのホームセンター出掛け購入してくる等の支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「用事あるので家さ電話して欲しい」等の希望時は、本人の前で直ぐに電話し、本人に代わったり希望を伝えたりの援助行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと、利用者の方と一緒に作った貼り絵を廊下に展示し皆で眺めたり、各居室には毎月の塗り絵のカレンダーを飾っている。玄関先には草花を植え、毎日夕方利用の方と共に水掛けをして花を眺めている。	季節毎に変える貼り絵が飾りつけてあり、こじんまりとした一家庭のようなアットホームなやすらぎが感じられる。ホールのテーブルを片付けてやる日替わりのレクリエーションは体を動かしたり、頭を使ったり機能維持に役立たせている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の廊下にソファを置き、外を眺めながら毎日ほぼ決まった方が同じ時間帯に同じ会話を繰り返している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に持ち込んでいる家具や荷物等の相違はあるが、なるべく個々の機能維持や認知状態に配慮し、居室配置に職員の意見を取り入れながら決定しており、配置も本人の意向を可能な限り取り入れている。居室変更が必要な場合は、随時家族の了解を得て対応に当たっている。	利用者の身体能力に合わせてベッドの位置や畳敷きにしたり安全面を大切に考えて工夫している。馴染みの物を持ち込んだり、インコを飼っている方もおり利用者それぞれが居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4月にベットより転落し左大腿骨転子部骨折にて手術、2週間後再入所となっている。退院後徐々に行動的となり家族の了解を得て再転倒防止に、床に畳を敷き布団にて対応している。歩行機能は入院前と変わらず経過している。		